

日本高齢者運動連絡会ニュース

発行責任者 藤谷 恵三 発行所 日本高齢者運動連絡会
〒164-0011 東京都中野区中央 5-48-5 シャンボール中野 504 号
Tel/Fax03-3384-6654 E-Mail nihonkouren@nifty.com

発行：毎月1日
2015年10月1日
No.302



第29回日本高齢者大会 in 和歌山全体会=県民文化会館

戦後70年 憲法をいかし格差のない公正な社会を 第30回日本高齢者大会 in 和歌山に5100人 「戦争あかん！9条守れ!!」

第29回日本高齢者大会 in 和歌山中央・和歌山実行委員会

「まちから村からの連帯でひとりぼっちの高齢者をなくそう」「戦後70年 憲法をいかし 格差のない公正な社会を」をテーマに第29回日本高齢者大会 in 和歌山は、9月15・16日と2日間にわたって開かれまし

た。

1日目の15日は、会場の和歌山大学で、41の学習講座・分科会・シンポジウム・移動分科会・和歌山学・交流が行われました。



2日目の16日は、和歌山県民文化会館を会場に全体会。「海南民商太鼓 ひびき」の歓迎の太鼓。司会は出野孝道さん（医療福祉生協連）と中谷弘子さん（新日本婦人の会和歌山県本部）。大会直前の豪雨で被災された方々へのお見舞いと連帯が述べられた後、開会が宣言されました。中谷吉治・和歌山県実行委員会委員長が歓迎のあいさつを述べ、藤末衛・中央実行委員長の主催者あいさつを岸本啓介さん（民医連）が代読しました。

来賓からのごあいさつと紹介されたメッセージでは、共通して大会成功への期待が表明され、特に戦争法案の採決がひっ迫した中で行われた今大会の意義が強調されました。

つづいて鐘ヶ江正志・中央実行委員会事務局局長が基調報告。

このあと会場となった大ホールと小ホー

ルを埋める参加者が交流。ブロックごとに紹介されました。

そして、安齋育郎さんが記念講演。「『平和』とは暴力のない状態、暴力には直接的暴力・構造的暴力・文化的暴力があるという理解が広がりつつある。直接的暴力としての戦争を防ぐために憲法の意義を考え、これから私たちがどう生きていくかを考えよう。私たちは微力だが無力ではない」と、難しい問題をユーモアを交えながらわかりやすく話され、大変な盛り上がりでした。

地域報告は福島県・福島県高齢者運動連絡会の伊藤洋さん、沖縄県・沖縄医療生活協同組合の名嘉座安子さんが行ないました。

「じいじばあば大好き」の可愛らしい歌声に続き、多田重正さん（全日本民医連）からカンパの訴えがあり、フラダンス、合唱、りら創造芸術学園の皆さんの歌とダンスなど多彩な舞台が繰り広げられました。山元美奈子さん（新日本婦人の会）から大会決議案が提案され、拍手で採択されました。

最後に、大会旗が和歌山県実行委員会から次の開催地 東京高齢期運動連絡会に引き継がれ、壇上の東京の皆さんを代表して金子民夫・東京高齢期運動連絡会会長が決意表明。大森米三郎・和歌山県実行委員会副実行委員長の閉会あいさつで幕を閉じました。



講演する安齋育郎さん



大会場いっぱいの「9条守れ」



中尾冴貴(さき)さん・心暖(ここあ)さんの
「せんべいの唄=じいじばあばだいすき」

大会決議

安倍政権は、国民の8割が「説明不足だ」「今国会で成立させるべきではない」としているにもかかわらず本日参議院特別委員会の質疑を打ち切り、戦争法案を強行採決しようとしています。

日本高齢者大会の参加者一同は、この暴挙に怒りを込めて抗議します。

この間国民の世論は大きく広がり、これまで政治には消極的と言われていた若者や高校生もたちあがり、戦争によって青春時代を奪われた高齢者が「二度と戦争はごめん」と戦争法案反対を呼びかけています。8月30日の12万人の国会包囲行動行など「安倍内閣による平和と民主主義への戦後最悪の攻撃許すな!」と、全国津々浦々で史上最大の運動が広がり続けています。

一方安倍政権は、安心できる老後を破壊する社会保障制度の改悪を推し進めています。昨年4月からの消費税8%への増税、年金

の削減、「医療・介護総合確保法」による医療費の自己負担増や介護保険料の値上げなどが、高齢者のくらしを直撃しています。

また、国がすすめる「地域包括ケア」は、自助、共助が基本とされ「高齢者の介護は本人と家族でやるべきこと」として国の責任を放棄するものになっています。

日本中の原発稼働ゼロは700日続きました。原発がなくとも電力は足りています。ところが未だに10万人以上の人が見通しのつかない避難生活を続けている東京電力福島第一原子力発電所事故の現実に目を背けたまま、川内原発が再稼働しました。こんな人命軽視、民意無視の政治は許せません。

私たち高齢者は、あの悲惨な戦争体験と戦後の厳しい生活の中で「戦後70年 憲法をいかし、格差のない公正な社会を」をかかげ、「戦争をする国」にさせないために以下の行動に取り組みます。

- ① 積極的に戦争と戦後の体験を語り、引き続き戦争法案反対の世論を広げます。
- ② 年金、医療、介護など高齢者のくらしの実態を明らかにし、多彩な要求実現運動に取り組みます。
- ③ 全国各地で高齢者の願いを実現するため地域連絡会づくりをすすめます。

以上決議します。

2015年9月16日
第29回日本高齢者大会 in 和歌山

平和安全関連法の強行可決に抗議し、 戦争法廃止を目指す新しい政治をつくろう！

2015年9月22日

日本高齢者運動連絡会

事務局長 藤谷 恵三

日本高齢者大会中央実行委員会

事務局長 鐘ヶ江 正志

安倍政権は、9月19日に憲法違反の安全保障関連法（戦争法）を自民・公明両党と次世代の党等の賛成多数によって強行可決・成立させた。私たちは、この暴挙に満身の怒りをもって抗議する。

全国各地で連日連夜「強行採決反対」「安倍政権の暴走許すな」の声が高まるかなでの強行採決であり、憲法違反と国会のルール無視だけでなく、民主主義そのものを踏みにじった許しがたい暴挙である。

国会内の多数を頼んで採決を強行しても、国民の怒りの声をふさぐことはできない。

戦争法反対の声は、戦争を体験した高齢者はもちろん、SEALDs（シールズ）（自由と民主主義のための学生緊急行動）の中高生も含めた若者、女性や母親などあらゆる層で広がり、法案可決後も、意気軒昂に運動を発展させている。

この法律は、多くの憲法学者や司法関係者が指摘するように、乱暴な解釈憲法であり、明らかな憲法違反である。

私たちは、今こそ戦争法を強行した安倍晋三政権を打倒し、憲法を守る勢力を結集して新しい政治の流れをつくることをめざし、その一翼を担って奮闘する決意を表明する。

そして、すべての政党・団体・個人が思想・信条・政治的立場の違いを乗り越え、戦争法廃止の勢力が国会で多数を占めるための運動に立ち上がるよう呼びかける。

そして国民の声をもとに、憲法を守りと民主主義を発展させる政府をつくろう。

安倍政権は、今後改憲を目指すと伝えられている。日本国憲法と平和のかつてない危機にある今こそ、平和主義・立憲主義・民主主義を貫く新しい政治をつくるために全国の高齢者が先頭に立ち多くの国民と力を合わせよう。

第30回日本高齢者大会・東京実行委結成！ 日本高齢者大会 in 和歌山に東京から200人 東京高齢期運動連絡会



第29回日本高齢者大会in和歌山が9月15日、16日和歌山市内で開かれ、来年の

第30回日本高齢者大会へのバトンを、東京がしっかりと受け継ぎました=写真

今回の第29回日本高齢者大会in和歌山は、稀代の悪法への「戦争法案」を巡って、国会で緊迫した情勢の中での大会となり、参加者も携帯電話やインターネットなどで、国会情勢を気にしながらの参加となりました。大会参加者も国会行動に参加された方もご苦労さんでした。

今回の、第29回日本高齢者大会in和歌山は、来年の「東京での開催」を受けて、23区、三多摩が一つになって取り組み、全体で200名近い参加者になりました。

15日の分科会、学習講座、移動分科会、分科会後の夜の企画のあとの夕食懇親会は団体行動で参加した133人が一同に会し、各団体・地域の状況やこれからの課題などの話で、有意義な交流ができました。

16日の全体会では、今年の開催地「和歌山」から来年の開催地「東京」に『日本高齢者大会』の旗が贈られ、東京からの参加者が登壇し、金子民夫実行委員長代理がしっかりと受け取り「安倍政治を許さない運動を広げて来年東京で会いましょう」と力強くあいさつと決意が語られ、第30回日本高齢者大会の成功を参加者の拍手で確認しました。

現場からの充実した討論で 高齢者大会の成功へ

第30回日本高齢者大会in東京・東京実行委員会の結成総会が9月10日、都内の団体・地域から67人の参加で開かれ、来年8月28日～29日の日本高齢者大会を現地で支える東京実行委員会の結成を確認。実行委員長に東京民医連の石川会長を選任しました。

結成総会では、現場を踏まえた発言が続き、第30回高齢者大会の成功にむけた意思統一がされました。

福祉保育労の国米さんは、介護現場の深刻な状況を、職場の仲間が団結して結成した組合の結成通知書を読み上げることで紹介。

生協連医療部会の吉岡さんは、憲法をめぐる状況はもはや引き返せない瀬戸際に来ていると指摘。この状況を打ち破る実践的な行動を提起する大会にしたいと発言。

三多摩健康友の会の大橋さんは、地域の中で高齢者が置かれている状況を具体的に考え、地域での活動、政策が議論できる大会にしたいと発言。

西東京の岡本さんは、直面している問題に対して、運動の方向をしっかりと打ち出す明確な基調提案の必要性を強調しました。

シニア合唱団の中澤さんからは、27回も続いている北区の高齢者大会や、東京のつどいでのコーラス、来年の日本高齢者大会には500人の合唱団を組織したいと決意が語られました。

三多摩労連の菅原さんは、地域実行委員会の組織、5000人の会場を埋めるには決意が必要と、高齢者問題と青年の現状を結びつけて取り組むことの重要性、若者との連携の大切さを強調しました。

足立の森さんからは、篠崎さんの「ひとりぼっちをなくそう。自分の家を開放してでも」との呼びかけにこたえて、「森さんち・いきいきサロン」の取り組みが紹介されました。

世田谷からは2人が続いて発言。「連合系を含む広範な結集による運動を展開できた。年金引き下げ違憲訴訟でも幅の広い運動をつくろうとしている」と述べました。続いて、「世田谷には『高齢期運動連絡会』と『高齢者のつどい実行委員会』の二つの組織があり、一本化しようという相談が進んでいる」との報告がありました。

年金者組合の田中さん。杉並の近藤さんからも発言がありました。

東京高齢者のつどい

日時 11月16日(月)

12:30 開場 13:00 開会

・会場 杉並公会堂大ホール

・記念講演：伊藤千尋さん

(国際ジャーナリスト)

『世界の現場から見える希望ある未来』

・地域・団体からの報告

・原爆詩の朗読

中村たつさん(劇団俳優座)

・東京高齢者・うたごえ合同による合唱。

・資料代 500円

(「東京高運連ニュース」9月29日発行から)

9・5「第 28 回福島県高齢者大会」

福島県高齢者運動連絡会

第 28 回福島県高齢者大会が 9 月 5 日、南相馬市サンライフ南相馬で開催されました。

大会は、①医療と介護②高齢者の暮らし③原発事故と被害者④戦争法案と憲法⑤原発被災地ツアーの 5 分科会と全体会が行われました。

全体会の来賓あいさつで南相馬桜井勝延市長は、「市は、平和を守る、市民の命を守ることを最優先している。3 月に全国で初めて脱原発都市宣言(別掲)をした、安保法制にも反対である」と話し、会場から大きな拍手がわきました。地元出身の田中英男さんが日



田中英男さんあいさつ

本高齢者運動連絡会を代表して挨拶し、伊藤洋事務局長が基調報告をしました。

「原発被災地ツアー一分科会」に参加して

前日本高齢者運動連絡会事務局長 鐘ヶ江 正志

訪問した浪江町(社)「希望の牧場・ふくしま」は、全町避難地域ですが、国の殺処分に抵抗して 330 頭の牛を飼育しています。代表の吉沢さんは、「牛を生かす意味について原発事故の生き証人、被爆牛とともに原発を乗り越える世の中をめざす」と熱く語ります。

ここでは、被爆牛の継続的調査をする東北大学や牧場内で被爆昆虫の調査をする帯広畜産大学の研究が定期的に続いています。原発事故の影響調査研究は世界的に貴重なものです。

地震・津波・原発事故のトリプル被害を受けた浪江地域は震災後 4 年半が過ぎやっ



牛の被爆被害と被爆の生き証人の牛を生かす意味を語る吉沢さん



行き場のない除染したガラが、その場に積み上げられている



被害家屋の片付けはこれから

片付けが始まったところです。家が立ち並ぶ地域もゴーストタウンで元の生活に戻る見



小高地区の除染作業

通しがたらず、原発事故の深刻さを改めて感じ、原発再稼働はあり得ないことだと確信しました。

南相馬市「脱原発都市宣言」

南相馬市では、東日本大震災に伴う原発事故を克服し、原子力エネルギーに依存しないまちづくりを推進していくことを広く市内外に表明するため、平成27年第2回定例会において「脱原発都市宣言」をする旨を議会に報告し、平成27年3月25日付けで告示しました。

脱原発都市宣言

(平成27年3月25日 告示第29号)

2011年3月11日、東日本大震災により南相馬市は未曾有の被害を受けた。さらに東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴い6万人を超える市民が避難を余儀なくされ、多くの市民が避難の中で命を落とした。

家族をバラバラにされ、地域がバラバラになり、まちがバラバラにされ、多くの人が放射線への不安を抱いている。

南相馬市はこの世界史的災害に立ち向かい復興しなければならない。

未来を担う子どもたちが夢と希望を持って生活できるようにするためにも、このような原子力災害を二度と起こしてはならない。

そのために南相馬市は原子力エネルギーに依存しないまちづくりを進めることを決めた。

南相馬市はここに世界に向けて脱原発のまちづくりを宣言する。

(南相馬市HPより)

「10.28 生活保護アクション in 日比谷」 25 条大集会に行こう！！

「解釈改憲」は憲法9条だけの問題ではありません。実は今、生存権保障をうたう憲法25条も骨抜きにされつつあります。自己責任を強調する社会 保障制度改革推進法が

2012年に成立して以来、医療、介護、年金等すべての分野で削減がおし進められているのです。その突破口とされた生活保護制度では、老齢加算の廃止、生活費や住宅費な

どの引き下げが 相次いでいます。くらしの最低ラインである生活保護の引き下げは、すべての人の「健康で文化的な最低限度の生活」レベルの引き下げを意味します。このまま黙っているわけにはいきません。誰もが社会から排除されることなく、人間らしく生きることのできる社会保障制度を求めて、集い、つながり、そして声をあげましょう。

「10. 28 生活保護アクション in 日比谷」

10/28 (水) 日比谷野外音楽堂

スケジュール

13:00～ アトラクション

13:30～ 集会開始

15:30～ スタート予定

国会方面へパレード

[呼びかけ人]

赤石千衣子 (NPO 法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ 理事) / 安形義弘 (全国生活と健康を守る会連合会 会長) / 朝日健二 (NPO 法人朝日訴訟の会 理事) / 雨宮処凛 (作家、反貧困ネットワーク 世話人) / 新井章 (弁護士) / 稲葉剛 (住まいの貧困に取り組むネットワーク 世話人) / 井上英夫 (生存権裁判を支援する全国連絡会 会長) / 井上啓 (神奈川 生活保護裁判 弁護士) / 宇都宮健児 (弁護士、反貧困ネットワーク 代表) / 大西 連 (NPO 法人自立生活サポートセンター・もやい 理事長) / 岡崎充隆 (椿法 律

事務所 弁護士) / 小川政亮 (日本社会事業大学 名誉教授) / 荻原博子 (経済評論家、ジャーナリスト) / 金子勝 (経済学者) / 香山リカ (精神科医) / 唐鎌直義 (立命館大学 教授) / 今野晴貴 (NPO 法人POSSE 代表) / 早乙女勝元 (作家、東京大空襲・戦災資料センター 館長) / 志田なや子 (弁護士) / 杉原泰雄 (一橋大学 名誉教授) / 住江憲勇 (全国保険医団体 連合会 会長) / 竹下義樹 (弁護士、全国生活保護裁判連絡会 事務局長) / 徳田晃一郎 (弁護士) / 寺久保光良 (生活保護基準引下げ反対埼玉連 絡会 代表) / 浜矩子 (同志社大学大学院 教授) / 樋口恵子 (NPO 法人高 齢社会をよくする女性の会 理事長) / 尾藤廣喜 (弁護士、生活保護問題対 策全国会議 代表幹事) / 平野啓一郎 (作家) / 布川日佐史 (法政大学 教授) / 藤井克徳 (NPO 法人日本障害者協議会 代表) / 藤田孝典 (NPO 法人ほっとプラス 代表理事) / 本田宏 (NPO 法人医療制度研究会 副理事 長) / 本田由紀 (東京大学大学院教育学研究科 教授) / 益川敏英 (名古屋大学 素粒子宇宙起源研究機構長) / 水島宏明 (ジャーナリスト、法政大 学 教授) / 森岡孝二 (関西大学 名誉教授) / 森永卓郎 (経済評論家) / 柳田雅久 (埼玉県生活と健康を守る会連合会 会長) / 和田秀樹 (精神科 医・国際医療福祉大学大学院 教授)

8月4日現在

[主 催]

「10. 28 生活保護アクション in 日比谷」実行委員会

<事務局>大阪市北区西天満 3-14-16

西天満パークビル 3号館 7階

あかり法律事務所 弁護士 小久保哲郎

TEL 06-6363-3310

高齢期運動を元気にする、エネルギーとヒントがここにある 「日本における高齢期保障の歩みと高齢期運動」

篠崎次男氏著 高齢期運動のブックレットNo.2発刊

(社) 日本高齢期運動サポートセンター

日本高齢者大会が始まってから 30 年。最初から高齢期運動の先頭に立ってきた筆者が、高齢期運動の歴史と成果をまとめ、新たな高齢期運動のあり方を提起します。高齢期運動を学ぶテキストとして最適です。

*お申し込みは Fax 03-3384-6654

(社) 日本高齢期運動サポートセンター



(定価 500 円)